

Hue-Heat仮説

室内構成色の色相と室温感との関係。

例：赤と青の室内では室温が3度違って感じる。

青い部屋は涼しい印象になるはOKだが、感じられる室温が変わるという決定的な研究があるわけではない。

時間経過感

室内構成色により、時間がどの程度過ぎた感じがするか(時間経過感)がどのように変化するか。

以下の説明をよく聞くと、逆の結果の実験もあり、はっきりしない。

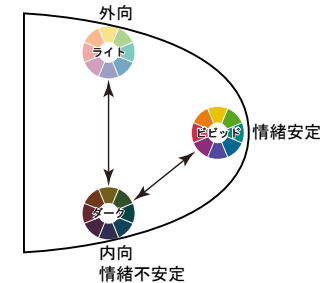
- ・赤、オレンジはactiveなイメージ→刺激が強く疲れる→実際より時間が長く経ったように感じる
- ・青は静かで落ち着いたイメージ→刺激が弱く癒される→実際より時間がゆったりと流れるように感じる

17

好きな色と性格

青が好きな人は、冷静で知的 → それはわからない

青が好き → その人が(その人にとっての)青のイメージが好きということは確か



青を冷静で知的なイメージと感じていないかもしれない。

そのイメージにあこがれているのかもしれない。ただ、冷静で知的な人はそうしたイメージを好むということを否定する研究はないようである。

パーソナリティと色の好みとの関係については、定説とはなっていないが、赤、青というよりも、鮮やかな色、明るい色、暗い色といったトーンとの関係がみられるという研究がいくつかある(名取ら2006、一連の松田らの研究、例えば2012)。

18

基本色彩語

／4.カテゴリー認知

文化人類学者バーリンとケイの論文(1969)から始まる研究課題。
色を分類して表すための基本的な言葉。

●基準の一部

単一語彙

より包括的な語があれば除く

特定分野でのみ使用するものは除く

使用頻度が高く一般的

最近の外来語は除く

除外例

黄緑

朱色(赤がある)

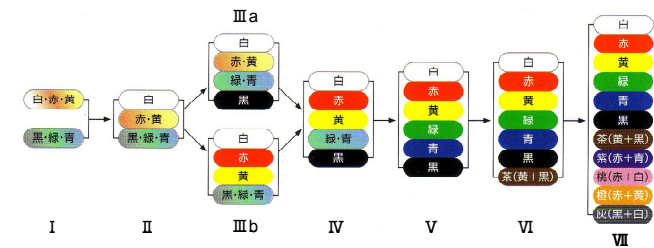
ブロンド(髪の色に使う)

- ・言語に共通する、普遍的な11種の基本色彩語がある。
- ・生理学的機構との対応をもつような「根源色6色(赤緑黄青白黒)」と、その組合せから生まれる「派生色5色(桃橙紫茶灰)」である。
- ・全言語に11あるわけではなく、最少で2語、最多で11語。7段階の進化段階がある。
- ・工業化が進んだ国の言語には11語が揃う。

19

「青」というカテゴリーが独立して生まれるのは、第5段階。

手前までは、青色と緑色が同じカテゴリーに属し、同じ言葉で表現。



基本色彩語の進化段階

(Kay & McDaniel, 1978から作図した、近江2003の図を引用)

20